

令和2年度 第1回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 上 原 正 樹

評 価 日		令和2年7月6日（月）	
委 員	氏 名	資格・所属等	委員長
	高田 裕子	鳥取湖陵高等学校PTA顧問	○
	小林 傳	鳥取市立高草中学校長	
	平家 裕一	湖山西地区公民館長	
	大高 美穂子	鳥取大学附属幼稚園副園長	
	伊田 大輝	鳥取湖陵高等学校同窓会長	
評 価 ・ 提 言			学校の所見・改善策等
1 前年度の最終評価について 特に意見なし 2 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○食品システム科・緑地デザイン科の野菜・花販売は知名度が高い。電子機械科などの取組がわかりにくいので、工夫して学校の魅力をどんどん伝えてほしい。 ○新聞記事に母校の活躍が多くあった。JR 鳥取大学前駅フラワー装飾は湖山地区の多くの学生の目にとまるなど良い取組なので、今後も続けてほしい。 ○昨年度までも学校と連携して、地域も生徒も共に良い方向へと向かうことができた。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが今年度も是非繋がりたい。 ○学校評価アンケート結果（就職率100%）などからも、生徒一人一人の個性・特性を伸ばそうとする学校の姿勢を感じる。 ○鳥取湖陵高校2年生について鳥取大学でのインターンシップが定着し、鳥取大学農学部への進学が毎年有り、大変うれしい。今後も続けてほしい。 ○アルバイトを推奨する意図ではないが、アルバイト禁止となった理由が知りたい。大学は、キャリア教育のひとつとしてアルバイトに取り組んでいる。 3 今年度の評価計画について (1)目標設定について 特に意見なし (2)目標達成のための取組について ○授業を参観して、生徒の皆さんの表情が明るく、のびのびとやりたいことに取り組んでいる様子がよくわかった。わかりやすい授業で、我が子を鳥取湖陵高校に進学させて良かったと感じている。 ○HACCP・GAP 認証で他校との差別化ができています。この取組を教育活動に取り入れることが重要なので、是非充実させてほしい。 ○他学科の内容も学習できる総合選択制のシステムは良い。課題研究などについて学科の枠を超えた校内発表会を検討してはどうか。 ○鳥取湖陵高校には、地域を支える人材育成の観点で是非とも頑張ってもらいたい。 ○自分で考え、自らすすんで行動できる力は大切。個に応じた柔軟な対応で力を伸ばしてほしい。 (3)評価基準及び評価指標について ○「協同学習の推進」の指標に「生徒自身の学び合いの深まり」をはかる指標を入れてほしい。 4 学校運営や予算に関する提言 (1)生徒募集について ○情報科学科作成のこりよっぴ通信をHP掲載に加えて、中学校へ配布し、学校の魅力を伝えてほしい。 ○鳥取湖陵高校には多くの発信がある。受け手の我々中学校側の感度はどうなのかを自問している。進路指導の感度を高め、点数での進路指導に終わることな			○今年度より電子機械科はわらべ館と連携し、親子工作体験などに取り組む予定。 ○学校としても地域連携の事業は、工夫して続けていきたい。 ○アルバイトを禁止したのではなく、校則「アルバイト原則禁止」のと通りの運用としたものの。実態として高校生の本分を超えたアルバイトがあったことは否めない。就労体験は意義があり、県教委事業のアルバイト就業事業などに取り組みたい。 ○毎年2回実施の学校評価アンケート「学び合いを取り入れた授業は自分の興味関心や理解の深まりに役立っている」の結果を今後も活用する。 ○今年度より、中学校訪問時にこりよっぴ通信を持参し、生徒の学習成果を伝える予定。

く、行きたい高校としての進路指導を更に深めたい。 (2)ICT 教育について ○共用 ipad 40 台で足りているか？中学校では一人一台端末貸与の GIGA スクール構想（当初 5 年計画）が前倒しとなった。鳥取市では令和 2 年 10 月に一人一台となる。詳細は今後。今後入学する生徒は一人一台端末で学習した生徒となる。このたびの新型コロナウイルス感染症対策において、リモートで繋がるのが今後主流となることを感じた。高校卒業後に即戦力として使える ICT スキルを学習する教育を充実させてほしい。 (3)その他 ○教科書採択の方法・選定理由等について了解。	○共用 40 台では不足する状況があり、リース終了後の ipad 40 台を追加し計 80 台準備した。追加分の一部は教員用として活用する予定。また、ICT 活用推進重点校として情報科学科は以前より BYOD に取り組んでいる。このたび、他の学科もスマートフォンを活用して双方向の通信環境を構築したところ。今後も更にすすめる予定。
---	--